

静岡県幼児教育の質向上を目指して

わっ！ぴょん通信

発行・編集
静岡県幼児教育センター

各市町で工夫を凝らした研修会や連絡会が展開され、幼保小の円滑な接続に向けた取組が広がっています。今回は、独自の「架け橋プログラム」を作成して地域全体でこどもの学びと育ちを支える富士市より、市全体及び中学校区での実践を紹介していただきました。

富士市の取組「校長・園長懇談会」

市内の全ての中学校区（15校区）で実施されている「校長・園長懇談会」。幼稚園・保育園・認定こども園55園と小学校26校が協力し、地域全体で子どもたちの学びの連続性の確保を図っています。

吉原北中学校区の事例紹介

当校区は、園から高校まで一堂に会する機会を年3回設定し、多機関連携をしている大変珍しい地区です。4つの幼稚園・保育園・認定こども園、3つの小学校、中学校・高校・特別支援学校の分校が各1校の全10機関が連携しています。懇談会場は持ち回りとなっており、施設内の紹介や教育活動の参観も含め、近況を報告したり、喫緊の課題を話し合ったりと情報を共有しています。

顔が見える関係から広がる対話の輪

定期的な会の開催により、共通の合言葉での防犯対策、不登校に関する情報交換、入学時の引継ぎなどの議論が活発になされ、小1・中1ギャップの解消にもつながっています。

参加者の先生からは「年々、この会だから本音で話せるようになってきている」「近隣の学校園と知り合いになることで問題解決の糸口にもなる」との声があります。また、園から高校までの園児児童生徒の交流も盛んになっています。



富士市の架け橋プログラムについて

富士市では「遊びという根っこが生涯にわたって学びを支える。」と考え、園、学校、地域、自治体等がつながり、子どもたちを支える連携を進めています。富士市架け橋プログラムの二次元バーコードはこちらです。



7月17日実施 幼小接続期の教育・保育研修

希望研修でも幼保小接続の学びが広がっています。



①「ことばの育ちをつなぐ(Springプロジェクト)」研修

赤塚めぐみ氏（常葉大学保育学部准教授）を講師とした「Springプロジェクト」研修では、「幼児期のことばあそびが小学校以降の学びの土台となることが理解できた。『あそびプログラム』を園でも取り入れ無理なく育ちを促していきたい。」等の感想が寄せられるなど、言葉の重要性を改めて感じる機会となりました。

本プログラムは幼児期はもちろん、小学校入学初期や通級指導教室等の指導にも参考となる内容です。Springプロジェクトの冊子等は「静岡県幼児教育センター」のホームページに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。



裏面に、「あそびプログラム」の一例が載っています！

②「こどもの表現と造形遊びを手掛かりとして」造形遊び研修

鈴木英司氏（日本美術教育学会静岡支部顧問）を講師とした造形遊び研修では、こどもの作品を用いた演習を行いました。参加者からは、「講義では、乳幼児期の造形感覚の発達について詳しく学べ、どうして隅っこに描くのか、どうして大きく描かないのかといった疑問が解決できた。絵を見る視点が広がった。」「園の先生との演習では、年齢に関わらず身近な大人の言葉掛けの重要性を改めて感じた。（中学校教員）」等の感想が寄せられ、実践に役立つ貴重な学びとなりました。



「魚を描けないから先生描いて。」と言ってくる子どもへの対応は？

「魚探しをしてみたら？木の葉でも魚になるよ。見立てる力も大切なのでは？」



こんなことができますか？

《ねらい》

- ◆リーダーの動きを見て、真似ることができる。
- ◆左右や上下などの位置が分かる。
- ◆動きの方向が分かる。

《準備物》

- 【必ず用意するもの】 なし
- 【あると便利なもの】 ホワイトボード マーカー 等

《あそび方》

☆リーダー（保育者）



こんなこと



こんなこと

○子ども ※リーダーと同じ動きをする



こんなこと



こんなこと



描く形により、難易度が異なります。

これらの形や、他にも波線やギザギザ線、星など様々な要素を含んだ動きに挑戦してみましょう！



動画をCheck!

こちらのQRコードから
あそびの様子を動画で見ることができます！
<https://youtu.be/6xpJ541kEt0>
このあそびの動画(2分20秒)



《ちょこっとワンポイント》

★手で描くだけでなく、肘やお尻、頭を動かして描くなど、全身を使って取り組んでみましょう。

★正確に動くだけでなく、よく見て真似することが楽しいと感じられるといいですね。

★はじめは真似しやすい大きな動き（しゃがむ等）を全身で表現するところからはじめてみましょう！

《こんな子いませんか？》

A どんな動きをしたらいかがに分からない



どんな動きをするのか事前に指図的に示してみましょう。

B 動きが覚えられない

○一度にたくさんさんの動きを取り入れずに同じ動きを2回繰り返すことから始めてみましょう。



まーる



さーんかく

○「まーる！」「さーんかく！」のように動きを言語化して覚えながら取り組んでみましょう。

